

福岡県労連

KENROREN

ZENROREN

2023
12月号
No.204

発行所 福岡県労働組合総連合
〒812-0016 福岡市博多区博多駅南
1-9-8 ケイ・アイビル2F
☎092-433-1833 FAX092-433-1822
編集発行
福岡県労働組合総連合
福岡県労連 検 索



〔定価〕
1部10円



福岡県労連女性センター 第29回定期大会

男女格差問題で重要な役割

福岡県労連事務局次長 今井 淳子

福岡県労連女性センター第29回定期大会が、12月3日開催されました。現地参加者13名、Zoom参加者2名計15名の参加がありました。

冒頭、福岡県労連の三苦議長代行よりZoomで挨拶をして頂きました。「日本では女性の労働参加率が高く、その中でも特に客室乗務員の仕事は女性为主に担っていて、一方で機長の大部分は男性であり、男女間の格差が存在している。私立学校の非常勤講師や福祉保育の先生の労働環境にも問題があり、非常勤講師の時給が低く、常勤採用になれないことや、自殺者が出てしまった事例もある。また、コロナ禍においては女性がリストラなどで影響を受けた。法律の問題としては、家内労働法は明治時代の法律のままであるため、夫婦経営の妻の給料は経費として認められず、家政婦は家事労働部分を労働時間とされるが、実際は長時間労働を行っている。このような問題に取り組むためには、女性センターでの活動が重要」とのことでした。

大会では学習の機会も設けられ、全労連本部の寺園氏を講師に

学習を行いました。学習では、世界のジェンダー問題の取組やストライキに立ち上がる女性の話と、一方で日本では年金まで続く女性の不利益があり、ジェンダー問題と政治経済は大きく関わりがあるとのことでした。

討論では出席者から「問題に対する知恵を出し合う場をつくること、違う職種の方と会えるこの場は大切、みんなが来て良かったと思える場づくりも活動をしていくためには大切」という意見がありました。大会後は講師を囲んでランチミーティングを行いました。



第15回福岡県労連青年部定期総会 平和友好祭2023

ゲームで憲法の大切さ実感

福岡県労連青年部部长 松尾 沙緒理

11月26日(日)、第15回福岡県労連青年部定期総会と平和友好祭2023が開催されました。青年部定期総会には9名、平和友好祭には10名(事務局含む)の青年が参加しました。

青年部定期総会では、経過報告の中で青年部活動の活動の幅が広がっていることが報告されました。一方で、今後の課題としてより多くの青年が気軽に参加できる活動内容にすることを今後の方針として確認しました。

その後は要求作りのワークショップを行いました。午後からの平和友好祭では、あすわかが作成されている憲法ボードゲーム「kenpogame」で

日本を守れ！」で楽しくゲーム感覚で憲法の大切さについて学びました。

参加者からは「グループで協力しながら、楽しく学ぶことができた」といった声が聞かれました。改めてこうした産別や地域、業種を超えた青年同士のつながりづくりの大切さを感じました。

今後も様々な団体と手を取り、青年の要求実現の運動と平和を守る行動を広げていきたいと思います。



加盟組合の取り組み報告(自交総連)

危険なライドシェア(白タク) 安心・安全の公共交通の充実こそ必要！

ライドシェアに関する各国の規制		
▲フランス	2014.10	パリ地裁が違法判決
▲ブラジル	2015.8-9	リオデジャネイロとサンパウロで禁止の条例案を制定
▲ベルギー	2015.9	ブリュッセル商事裁判所がウーバーの提供を禁じる判決
▲イギリス	2016.10	ロンドン雇用裁判所がウーバーの運転者は雇用労働者と判決
▲イタリア	2017.4	裁判所の判決で、全土でウーバーの営業を禁止
▲EU	2017.12	司法裁判所がウーバーは運輸業で法規制が適用されるとの判決、欧州全域に適用
▲アメリカ	2018.8	ニューヨークで配車サービスの台数規制、運転者に最賃適用の条例を可決
▲中国	2019.1	前年の殺人事件を受け、ライドシェアの運転者・車両を規制

今年11月、政府の規制改革推進会議による議論で、一部有識者より「自家用有償旅客運送」を拡大する道路運送法改正案が提出された。

ライドシェアは、アメリカ生まれの新しいビジネスで、スマートフォンアプリを使って、移動したい利用者と自家用車のドライバーのマッチングをします。自動車運賃を取って他人を乗せるためには、道路運送法でタクシー事業の許可が必要です。許可制とすることで乗客の安全を保障できる事業者かどうか審査・監督が可能となるからです。

また、ドライバーは二種免許を保有していなければならず、過労運転防止のため兼業は禁止されています。事業者には運転手の健康管理やアルコールチェック・車両整備や安全点検の厳しい基準が義務付けられています。

ライドシェアはこうしたチェックがまったくありません。スマホで呼び出された一般のドライバーがマイカーに乗客を乗せるので、誰にも管理されない

め、ライドシェアを導入した国では事故や婦女暴行事件・殺人事件まで起きており、多くの国では禁止が再規制がされています。

地方の交通問題は深刻です。そのため過疎地の交通手段としてウーバーの日本法人はライドシェアの導入を提案していますが、もうからなければすぐに撤退してしまうライドシェア・ビジネスに公共交通を任せることはかえって地域の安全を損なうことになります。

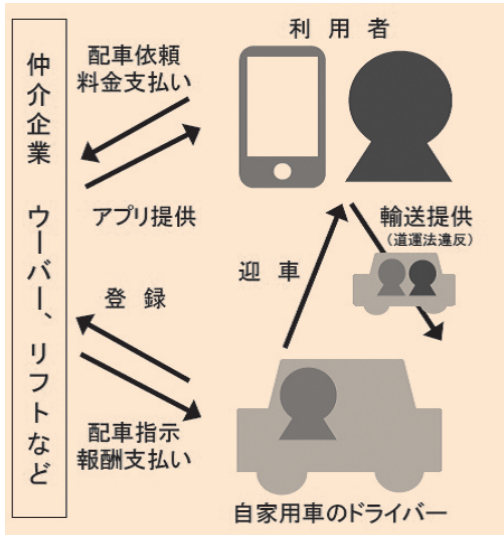
地方で交通手段を確保するためには、安全な公共交通を維持・整備することが必要です。そのためには地域交通に対する国の助成策を改善する必要があります。

送法改定を2024年めどにすすめるよう提言がありました。

この「自家用有償旅客運送」はバス・タクシー事業がない地域で、輸送手段の確保のために限定的に市町村やNPOが自家用車で運送サービスを行っているもので、安全管理の質がタクシースーツに比べて緩い制度です。

今回の提言はこの「自家用有償旅客運送」制度をNPO限定ではなく株式会社にも拡大すべきだとするもので、本当のねらいはライドシェア解禁の突破口とすることにあります。

規制改革推進会議に出席した福岡市の高島市長は「タクシースーツは全国的な喫緊の課題で法改正の整備を進めることはもちろん肝要だ」と発言しており、このライドシェア解禁に向けて前のめりの姿勢をみせています。



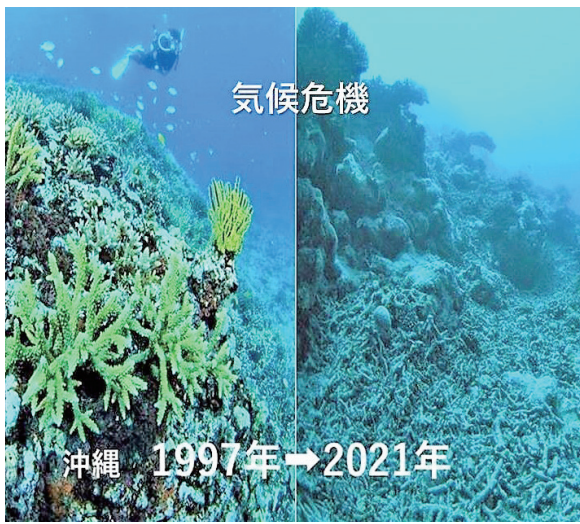
共につくる
未来

気候危機と労働運動(上)

世界的な気候変動の問題への取り組みは世界のすべての人々にとって、経済・社会・環境のいずれの面においてもきわめて重要です。しかしながら日常的な生活の中で環境問題を特に意識する機会はないかもしれません。ですが、一方で若い世代を中心に環境問題への関心が高まっており、その中で環境問題を入り口に社会の様々な運動となげる取り組みが広がっています。本稿では、環境運動と労働運動をつなげることで生まれる新たな可能性といのちと権利を守る観点から気候危機に対して労働組合が果たすべき役割について考えます。

迫る気候危機と破滅的影響

将来世代に持続可能な世界を残したいというのは人類共通の願いです。しかしながらその願いに反して世界的な気候変動は急激に進んでおり、その対策は一刻の猶予もありません。IPCCの2021年報告書は「人類の影響が大气、海洋および陸域を温暖化させたことは疑う余地はない」と断言しており、この



まま何も対策を取らずCO2排出が進めば、2100年までに4度前後上昇し、気温の上昇幅が大きいほど生物の絶滅の危険が高まると予測されています。食料については1.5度上昇でトウモロコシが不作となり、2度になると主食作物が栽培できなくなると見通しを示しています。こうした背景のもと、2021年10月にCOP26が開催され、2050年にカーボン

2021年に閣議決定された岸田政権の第6次エネルギー計画では、原子力発電依存を強めているだけでなく、G7で日本以外のすべての国が加盟している「石炭火力発電の廃絶を目指す脱石炭連盟(PCCA)」にも背を向け、2030年でも電力の19%程度を石炭火力で供給するとしています。また自然エネルギーについて、

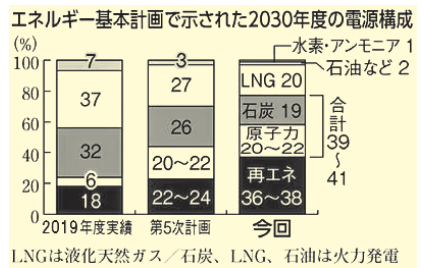
ニュートラル(CO2排出ゼロ)という目標を掲げ、2030年までに1.5℃抑制することを各国が強い決意で取り組むことを確認しました。しかし国連環境計画の報告ではすでに気温は1.1℃上昇しており、「2030年までに1.5℃に抑制するための信頼できる道筋はない」としています。

岸田政権の気候危機対策に未来はあるか

いま、日本以外の先進国が目指しているのは、2035年までに全電源を脱炭素化することです。この動きを後押ししたのは各国の市民による化石燃料反対運動の広がりです。最も大きな運動として有名なのは、カナダのオイルサンド発掘とその輸送のためのキーストンXLパイプライン建設反対運動です。アメリカ・カナダを縦断するこのパイプライ

脱炭素を後押しする市民運動

日本は世界に大きく遅れており、太陽光発電では現在ではまだ世界3位の導入量だが、年間増加量ではブラジルなどを下回っており早晩下位に転落する予測となっており、風力発電に至っては中国が36.5GWに対し日本は5GWにも達していません。



ンの建設予定地沿いの先住民や牧場主などが10年以上に渡り、デモ行進や建設機材搬入口での座り込みなどを行ったこの運動は、バイデン大統領に「キーストンXL」建設許可を取り消させる成果をあげました。



OREC green lab 福岡

福祉保育労組 城山 佐和子



オススメお店

この前、たまたま入ったカフェがとても雰囲気が良かったので、紹介します。ORECは70年以上にわたって農業機械をつくる企業で、このカフェは「人と農・自然とのつながりを身近に感じられる場を目指し、農や食をテーマにした、ドリンク、図書、イベントを行う場所となっています。1、2階がカフェ。3階がイベントスペースになっています。

コーヒーを注文しましたが、淹れたてでマグカップに一杯入っていてとても手軽な値段です。2階に上がると壁側に本棚、広い窓は全面見渡しがよく、下の交差点で行きかう人と、その上に天神の空が見渡せ、とても寛げる場所でした。

他にお茶にこだわりのあり、身体にやさしい選りすぐりのメニューだそう。すべてのドリンクは、ドリンクアップが可能です。

住 所：福岡市中央区赤坂 1-13-1
アクセス：西鉄福岡(天神)駅から徒歩 15 分・地下鉄赤坂駅 1 番出口そば

編集後記 最近、私の周りで体調を崩される方が増えています。先週娘がインフルエンザ B に罹患して今週は息子がインフルエンザ A に罹患しました。インフルエンザで学級閉鎖になる学校も出ているようです。この背景には新型コロナが5類になったことによる気のゆるみが広がって、感染予防の手洗い・うがいなどがおろそかになり、感染拡大がおこっているということがあるようです。感染症対策は予防がもっとも大切なことであり、そのための平時の備えが必要です。ところが、この当たり前の感染症対策の基本を無視して、福岡市は7行政区にあった保健所を1元化する方針を突如発表しました。一元化されれば人員削減や効率化がすすめられ、平時の感染対策はおろそかになり再びパンデミックを誘発することになりかねません。今、市民団体と地区労連などが緊急で一元化反対の行動を行っています。この問題についてぜひ周りで広げていただければと思います。(W)

交流のひろば



今月号で印象に残った記事の感想、日常の出来事などお便りください。「交流のひろば」に掲載いたします。メールまたはFAX または QR コードよりお送りください。掲載された場合QUOカードをプレゼントいたします。

■メール：watanabe@f-kenroren.jp
■FAX：092-433-1822

九州セミナーに参加して

11月18日(土)19日(日)、宮崎市にて第33回人間らしく働くための九州セミナーが開催され、性差別とジェンダー平等がテーマでした。日本が他国よりジェンダー平等が遅れていること、学校では多様性を配慮した教育がされていることなど、ジェンダー不平等の実態や、その改善の動きなどお聞きしました。私自身の職場や家庭内での振る舞いや考え方を改め、より良い環境を目指すために学んだことを活かしていきたいと考えました。(KOH O労働組合 Kさん)